

大学受験
パーフェクト講座 S A
英文法

見本



第1章 文の構造

知識の量は多ければ多いに越したことはないが、それが雑然と集積されているだけでは力にならない。基本的な事項と派生的な事項とが区別され、体系的に分類、整理されてこそ、個々の知識が生きてくる。ところが、あまり細かい「分類」にこだわって、それにふりまわされ、大学進学を目的とする受験生なのか、文法学者なのか、わからなくなってしまうのは行き過ぎである。「分類」することは、物事を分析・総合するための手段であることを思えば、基本的な概念はできるだけ少なくし、それを土台に「応用」できるようにしたほうがよい。

この章で扱う5文型は、あなたが高校に入学したての頃学校で習った5文型とはひと味違っている。ここでは **SVC**, **SVOO**, **SVOC** の3つに絞り、それらに使われる動詞を徹底的に頭に入れてもらうことを前面に打ち出した。文の構造すなわち文型は、使われる動詞で決まる。動詞が覚えられないと文型はマスターできないのだ、ということを念頭においてもらいたい。市販されている本の中には、5つの文型では物足りないのか、30以上の文型に分類しなおして、それを覚えなさい、としているものもあるようだが、文の要素が不定詞その他の句や節で置き換わっても、主要素についての基本的な型は、だいたい5種類のどれかに帰着するのである。

「この布は手ざわりがやわらかい。」「彼は一生涯独身のままだった。」「僕が成功したのは君のおかげだ。」これらを英語ではどう言うか。この章は、英作文の導入部でもある。

§ 1 SVC (第2文型)

1 次の()内に適当な動詞を入れよ。

- | | |
|---------------------------------|--------------|
| 1. This apple () sour. | (すっぱい味がする) |
| 2. These roses () sweet. | (いいにおいがする) |
| 3. You () tired today. | (疲れた顔してるよ) |
| 4. Aren't you () well? | (気分悪いの?) |
| 5. My father seldom () angry. | (めったに怒らない) |
| 6. Leaves () red in autumn. | (赤くなる) |
| 7. He () silent for some time. | (黙ったままだった) |
| 8. I had to () standing. | (立ちっぱなし) |
| 9. He () satisfied. | (満足したように思えた) |
| 10. The story may () strange. | (奇妙に聞こえるかも) |

解 説

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| ① She was happy. | ② She got happy. |
| ③ She seemed happy. | ④ She remained happy. |

上の①～④までの一連の文では、動詞が変わっても、She=happy という状態であることは、4つの文とも同じである。ただ、動詞が変わるにつれて、be 動詞にはない「色彩」が加わってくる。つまり、表現に幅ができ、微妙なニュアンスの違いが出てくる。上の文の happy の位置にくる語のことを補語と呼び、この場合、主語とイコールの関係になって主語を補うことばだから、正式には主格補語と呼ぶ。

SVC の文型では、V の位置に be 動詞以外の動詞がくる場合が特に重要で、単純で機械的な言い換え、いわゆる直訳ができない。そのため、英語を学ぶ側には難しく感じられるのだが、この難しさは、1に掲げた問題中の動詞を文の中で丸覚えすることで解消される。1の10個の動詞を確実に覚えてしまってから先に進むようにしなければならない。

解 答

- | | | |
|--------------------|-------------------------------------|---------|
| 1. tastes [is] | 2. smell | 3. look |
| 4. feeling | 5. gets [becomes] | 6. turn |
| 7. remained [kept] | 8. keep [remain, continue(= go on)] | |
| 9. seemed | 10. sound | |

第2文型をとる動詞

- | | | |
|-------------------|--|---------|
| 1 味覚 「…の味がする」 | → taste | } + 形容詞 |
| 嗅覚 「…のおいがする」 | → smell | |
| 感覚 「…の感じがする」 | → feel | |
| 視覚 「…に見える」 | → look | |
| 「…らしい[思える]」 | → seem | |
| 聴覚 「…に聞こえる[思える]」 | → sound | |
| 2 「…になる」 | get, become, turn,
come, go, grow, fall | } + 形容詞 |
| 3 「～である, ～のままである」 | lie, keep,
stand, remain | } + 形容詞 |

2 次の () 内に適当な動詞を入れよ。

1. He () to have a car. (車を持っているらしい)
2. I () to be at home then. (たまたま、家にいた)
3. The dictionary () to be useful. (役に立つことがわかった)
4. His words () () to be true. (本当だとわかった)
5. You will () to like him soon. (すぐ好きになるよ)

解 説

SVC の文型を形づくる動詞でもう1つ重要なものは、C の位置に不定詞をとる動詞で、これこそ数が少ないので、全部丸覚えしてもらいたい。ここで注意すべきことは、次の通り。

1. 2 の 1~4 の文は、すべて It ... that ~ で書きかえられる。

1. = **It appears that he has a car.**
2. = **It happened that I was at home then.**
3. = **It proved that the dictionary was useful.**
4. = **It turned out that his words were true.**

(これらは、英文解釈
で重要。改めてイデ
イオムのように覚え
るとよい。)

2. seem, prove などの後に形容詞がくるときは、不定詞を使わなくても書ける。

例. He seemed to be happy. = He seemed happy.

It proved to be right. = It proved right.

3. 上の例の不定詞 to be は、ともに名詞的用法。

to be happy は、「幸福であること」 **to be right** は、「正しいということ」
全体が、1語の名詞と等しい働きをしている。

解 答

1. appears [seems] 2. happened [chanced] 3. proved
4. turned out 5. come

第2文型をとる動詞(2)

- | | | |
|---|---------------|------------------|
| { | seem to V | 「Vらしい」 |
| { | appear to V | 「偶然Vする」「たまたまVする」 |
| { | happen to V | 「結局Vであることがわかる」 |
| { | chance to V | |
| { | prove to V | |
| { | turn out to V | |

§ 2 SVOO (第4文型)

目的語を2つとる動詞

3 次の文の直接目的語(DO)には実線を、間接目的語(IO)には波線を
つけよ。〔例〕 My uncle gave me a watch.

1. He showed me his new car.
2. The teacher often gave me good advice.
3. Miss Baker teaches us English.
4. The waiter brought me a glass of wine.
5. I gave the dog a bone.
6. She told the boys an old story.
7. I handed Mary a ticket for the concert.
8. Can you find me a seat?

解 説

give, show, buy, ask などの動詞を授与動詞と呼び、次のような語順をとる。

give + 人 + 物	「人に物を与える」	
show + 人 + 物	「人に物を見せる」	※ 人を表す目的語が先。
buy + 人 + 物	「人に物を買ってあげる」	物を表す目的語が後。
ask + 人 + 物	「人に物をたずねる」	

上の「人」にあたる語を間接目的語(IO)、「物」にあたる語を直接目的語(DO)と
いう。

解 答

1. me his new car
2. me good advice
3. us English
4. me a glass of wine
5. the dog a bone
6. the boys an old story
7. Mary a ticket
8. me a seat

次のように、「人」と「物」を逆にして書きかえると前置詞が必要になる。

{ I'll give you my camera.	= I'll give my camera to you.
{ He showed me his album.	= He showed his album to me.
{ Father bought me a book.	= Father bought a book for me.
{ Mother made me lunch.	= Mother made lunch for me.

- | | |
|-----------------|---|
| 1 前置詞 to をとる動詞 | ① give, show, tell, teach (これだけは基礎)
② pay, offer, owe (次にこれだけ覚えよう)
③ send, pass, hand, write, etc... |
| 2 前置詞 for をとる動詞 | ① make, buy = get
② find, save, cook, choose |
| 3 前置詞 of をとる動詞 | ask ex. ask a question of me |

SVOO → SVO への転換

4 次の文を例にならって書きかえよ。

[例] He gave me a pen. → He gave a pen **to** me.

1. Our uncle told us an amusing story.
2. Who made you such a beautiful dress?
3. I can find you a quiet hotel.
4. Will you get me a bottle of juice?
5. I wrote my mother a long letter.
6. May I ask you a favor?

解 答

1. Our uncle told an amusing story **to** us.
2. Who made such a beautiful dress **for** you?
3. I can find a quiet hotel **for** you.
4. Will you get a bottle of juice **for** me?
5. I wrote a long letter **to** my mother.
6. May I ask a favor **of** you?

§ 3 SVOC (第5文型)

第5文型と他の文型との区別

5 次の2つの文を意味の違いがわかるように和訳せよ。

- (a) The teacher called her name.
(b) The teacher called her "Yukiko-chan".
- (a) He will make his son a pilot.
(b) He will make his son a model plane.
- (a) I found an easy book.
(b) I found the book easy.
- (a) He keeps many birds in his room.
(b) He always keeps his room clean.

解答 第5文型だけでなく、その他の文型にも使われる動詞の代表例。

- (a) 彼女の名前を呼んだ。
(b) 彼女を「ユキ子ちゃん」と呼んだ。
- (a) 息子をパイロットにするだろう。
(b) 息子に模型飛行機を作ってやるだろう。
- (a) 簡単な本を見つけた。
(b) その本が簡単であることがわかった。
- (a) たくさんの鳥を自分の部屋で飼う。
(b) 自分の部屋をいつもきれいにしておく。

第5文型をとる動詞

6 次の()内に適当な語を入れよ。

- 私たちは、その本が難しいことがわかった。
We () the book ().
- つまらない講義で眠くなった。
The dull lecture () me ().
- 部屋を暖かくしておけ。
() the room ().
- 僕は、きのう散髪してもらった。
I () my hair () yesterday.
- 僕たちはトムを野球部の主将に選んだ。
We () Tom () of the baseball team.

6. 彼は、その窓をあければなしにしておいた。
He () the window ().
7. 彼女は、その鳥をはなしてやった。
She () the bird ().

解 説

- ① I **named** it Pochi. ② I **made** it my pet.
③ I **kept** it secret. ④ I **found** it clever.

上の①～④の文で共通していることは、“it = it の次にくる語”という関係がどの文についても成り立っていることである。上の文の it の位置にくる語は目的語(O), その次にくる語は補語(C)と呼ぶが、この場合の補語は、目的語とイコールの関係になって目的語の意味を補うことばだから、正式には**目的格補語**と呼ばれている。

このような O = C という関係を後ろに従える動詞は、そうたくさんあるわけではなく、基本的なものをしっかりと覚えこんでおけば、解釈・作文のときに威力を発揮してくれる重要な動詞である。この動詞は、上の文の①, ②のように C の位置に**名詞**をとる動詞と、③, ④のように C の位置に**形容詞**(または**分詞**)をとる動詞の2つに大きく分けられるので、これを1つの目安として覚えると都合がよい。

- 1 SVOC の C に**名詞**をとる動詞
call, name, choose, elect, make, appoint
- 2 SVOC の C に**形容詞**をとる動詞
make, keep, leave, find, paint, wash, like, set

解 答

1. found, difficult 2. made, sleepy 3. Keep, warm
4. had, cut 5. chose, captain 6. left [kept], open
7. set, free